

腰を廻してむも秋田庄内へ此往還あり三方は深田に
して安を難し東は大手力水も二跡と並びて折難
き細道これに究竟此要害なり義光公少孫く免角
下當ありて虚実をえんと双方圍を合せて攻残ふ
城中も究竟の兵共おれに速責落しかくしそ
向城を搦む要害を守り数日責戦ひたり然るに山形
勢押寄る水は東方より麓起り只一片の白雲と成り
城郭を覆ふて見えなく城内より数百騎の軍兵
麓の隈より弓銃炮を揃へ打たる安を引退け城兵
皆山に登りお覆ひし白雲も東の火入る戦ふも又
形のごく雲起り夜に入水は數百騎の足音まで杜原に
下り夜廻り此隙もなし我光公は憚りてその責崩せと
阿る水に三百騎押寄て圍のおもをわけ城中より下り
防ぎ戦ふ安に頼久公の御牌所に佛向寺と云時宗の
寺あり此六供は眞福寺長松院とて二寺ありは長松
院鉄阿彌とて脊高く色黒く力量人なれば能く長
刀の上より要害由いもはちん矢法も早の毛利是を人皆
今武藏坊とて呼ひる安に延沢城主日野能登守端
尚天童の以旌下故に諸甲比司を取り數度の戦ひも
鉄阿弥坊出れ能登守城を守り能登守出れば法師